

第3幕

都踊（宮城道雄） 都山流洪風会
宮城会香綾会

京の春は、円山公園の桜と都踊りとに代表される。都踊りとは、毎年京都祇園の舞妓や芸妓によって演じられる踊りのことで、絢爛豪華な都踊りの情景を箏高音・低音・三絃で表現したものである。

（大正4年作曲）



第4幕

生写朝顔日記

香翠座デコ
芝居

大井川の島田宿で駒沢次郎左衛門は、衝立にかけて深雪にしたためた「朝顔の歌」が書いてあるのを不思議に思い、宿屋の主に聞くと「朝顔」と云う目の見えぬ女がこの歌を歌いながら旅をしていると聞く、



その朝顔の歌を所望した駒沢は、琴を弾く変わり果てた恋人の深雪と知るが、意地の悪い岩代が居るので名乗れません。駒沢は宿屋の主人を呼出し、深雪に渡すようにと「扇

お金と目薬」を預けて出発します。それを知った深雪は、嵐の中駒沢を追って大井川に行き、川止めを知り川に身を投げようとなります。今回ここまでを演じます。

第1幕

傾城阿波鳴門
巡礼歌の段

香翠座デコ
芝居

徳島藩のお家騒動に絡んで、盗まれた君主の刀を詮議するために、阿波の十郎兵衛、お弓の夫婦は名前を変えて盗賊に身をやすし、大阪の玉造に住んでいます。そこへ巡礼姿の娘、お鶴が、はるばると阿波から父母を尋ねてきます。お弓は、すぐに我が子と分かりますが、ここで名乗りをしたのでは、お鶴にどんな災いが降りかかるとも知れません。涙を呑んで別れるお弓、しかし、お鶴の歌う巡礼歌に、たまらず後を追ってしまいます。抑えきれない母と子の情が、後の悲劇につながります。

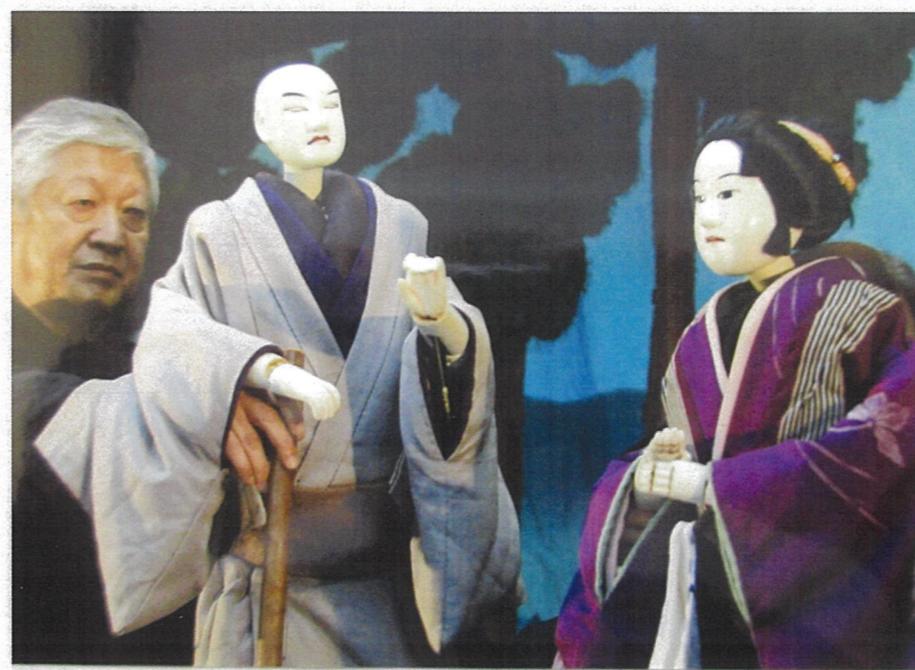


第2幕

壺阪観音靈験記
山の段

讃岐源之丞

沢市は盲目のひがみから貞節な女房を疑い続けてきたことを悔い、お里に励まして壺坂寺に参籠するところから始まります。沢市は三日間ここで断食する気であったが、独りになってみると「どうせ望みは叶うまい」と、かたわらの谷に



身をおどらせてしまいます。山に戻ってきた、お里は夫の姿が見えないので半狂乱となって駆け回り、形見の杖を見つけるや、後を追って谷底に身を投げます。今日はここで終わりますが、その後観世音が現れ、女房の貞節と日頃の信仰心をほめ靈験により生き返り、そればかりか沢市の目も開かれ、光明の世界を見ることが出来ます。喜んだ夫婦が「万歳」を舞って、お礼参りをします。



かがわ文化芸術祭2023 参加公演

令和5年香翠座創始百九十年記念公演

香川県指定 有形・無形民俗文化財

円座に根付いた庶民文化の華 香翠座デコ芝居

香翠座は天保4年（1833年）に讃岐円座に生まれました、当時は松の根を削って頭に、袴紗を衣装にした「円座のふくさ人形」と呼ばれていました。それから今年で190年が経ちました、これからも大事な香翠座デコ芝居を守って行く決意と共に、190年記念公演を行います。

プログラム

開場	13時00分	
開演	13時30分～	主催者挨拶 御来賓ご挨拶
第1幕	13時45分～	傾城阿波鳴門 巡礼歌の段
		香翠座デコ芝居 保存会
第2幕	14時20分～	壺阪観音靈験記 山の段
		讃岐源之丞 保存会
第3幕	15時00分～	都踊 宮城道雄
		都山流洪風会 宮城会香綾会
第4幕	15時30分～	生写朝顔日記 宿屋～大井川の段
		香翠座デコ芝居 保存会
閉会の挨拶		円座コミュニティ協議会 会長 木村 靖

出演団体の紹介

香翠座デコ芝居保存会

香翠座は天保4年に讃岐円座に生まれ、当時は松の根を削って自分で作った頭に袴紗を着せた「円座のふくさ人形」と呼ばれ、運営は頼母子講と言って必要な物は座員が持ち寄り、また作ることで運営されていたとの事です。コミュニティセンターの人形ケースに豆人形が残っています。

幕末期には高松藩の連枝で松平頼該公（通称左近様）が円座に香翠座があることに知り屋敷に呼ばれ、人形2体と田畠7畝を賜りました。その後娯楽の多様化、戦争により一座が衰退をしましたが、昭和63年の香川県民ホールのこけら落しの出演を機に香翠座デコ芝居保存会が結成されました。香翠座は今座員が不足して困っています。人形使い、三味線奏者・語り太夫に興味がある人はぜひ連絡ください。



讃岐源之丞保存会

明治30年頃、三好富太郎によって人形淨瑠璃一座が結成。現在は人形頭42点を保有しており、人形頭には天狗久をはじめ、人形富・人形忠・天狗弁・大江順など名入りの頭が数多く保存されている。一時期は一座の存続も危ぶまれる状態であったが、昭和50年頃からは、一座を守るため後継者育成に力を注いでいる。

現在では平成9年に地元で第12回国民文化祭、芸術祭人形淨瑠璃が開催され、平成10年度からは、県・町の後継者育成事業により国立文楽劇場の指導を受け、太夫・三味線・人形使いと三位一体になって上演できるようになった。平成16年3月5日に県指定無形民俗文化財に指定され、平成26年11月3日には香川県文化芸術選奨を受賞した。

